

演習林の鳥類

(愛媛大学米野々演習林の野鳥)

石原 保*・森下 強**

The Birds of the Ehime University Forest in Komenono, Matsuyama

Tamotsu ISHIHARA and Tsuyoshi MORISHITA

Summary : The Ehime University Forest covers about 380 ha of mountainous region, which is situated in Komenono, Matsuyama. There are so high places as Myojingamori (1,217m), that not a few mountainous birds are found there.

Up to now, the wild birds having been observed in the Ehime University Forest come to 88 species of 29 families belonging to 11 orders. They consist of 35 residents, 23 summer-visitors, 21 winter-visitors, and 9 transients.

According to the line-census, after repeated several times, it was proved that the dominant species in the Forest are the great tit, the brown-eared bulbul and the jay.

- 要旨** 1. 愛媛大学農学部附属米野々演習林で鳥類の調査を行った。
2. 現在まで、11目29科88種を確認したが、今後の調査でさらに種類数はふえると思われる。
3. 第一林班と第二林班でラインセンサスを行った結果、26種が観察され、そのうちの多くの種類が普通に見られることがわかった。
4. ラインセンサスの結果、米野々演習林における主要な構成鳥類は、シジュウカラ、ヒヨドリ及びカケスの3種であることがわかった。

I ま え が き

我々は、機会あるごとに愛媛大学農学部附属米野々演習林で鳥類の調査を行ってきた。スズメのように演習林内では見られないが、演習林事務所のある米野々地区にいるものは、近接地でもあり演習林との関連が深いので含めると、現在11目29科88種を確認するに至った。88種の内分けは、留鳥35種、夏鳥23種、冬鳥21種、旅鳥9種である。

* 応用昆虫学研究室 Entomological Laboratory

** 環境保全学科学学生 Student of Department of Environment Conservation

まず、これらの各種について記し、最後にラインセンサスによる密度及び優占度についての調査結果を述べる。米野々演習林は、松山市の東端、すなわち石手川の源流地域に位置し、面積約 380 ha、標高 515 m から 1,217 m である。

植生は、標高 700 m 前後まで落葉広葉樹の二次林があり、標高 700 m から 1,000 m では、モミ・ツガ林が発達している。そして標高 850 m 以上でブナ林が出現してくる。しかし現在では、かなり伐採、造林が進んでいるので、これらの自然林に代ってスギ・ヒノキの造林地が多く面積を占めるようになってきている。

本文に先だて、多くの資料を提供していただいた日本野鳥の会愛媛支部及び調査に当って多大なご協力をいただいた演習林事務所の諸氏に厚くお礼申し上げる。

II 米野々演習林の鳥類目録

種の配列・和名・学名は、日本鳥学会編日本鳥類目録第 5 版第 2 刷 (1974) に従った。和名の末尾につけた番号は、日本鳥類目録によるコードナンバーである。学名の後に [] でくくって英名を示した。なお、食性については、(石沢ら, 1966), (小島ら, 1967), (千羽, 1969), (黒田, 1969), (清棲, 1973) を参考にした。

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

1 ミゾゴイ (49) *Gorsakius goisagi* (Temminck) [Japanese night heron]

夏鳥。1976 年、1977 年の 5 月から 6 月にかけて数回、第 2 林班の谷で、2 羽ずつ確認した。時期的にみて繁殖の可能性はある。

ワシタカ目 FALCONIFORMIS

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

2 トビ (118) *Milvus migrans lineatus* (Gray) [Black (or Black-eared) kite]

留鳥。市街や海岸などには多いが、演習林内で見かけることは少ない。鳴声は“ビービョロ ヒョロ ヒョロ”。

3 オオタカ (121) *Accipiter gentilis fujiyamae* (Swann & Hartert) [Goshawk]

冬鳥。稀、1975 年 12 月 24 日、秋山勤三・梅田喜業の両氏によって確認されている。造林上有害なノウサギを好んで食べるので重要な天敵である。

4 ノスリ (127) *Buteo buteo japonicus* (Temminck & Schlegel) [Buzzard]

留鳥。あまり多くない。ネズミ・ノウサギの天敵として重要。

5 サシバ (128) *Buteo indicus* (Gmelin) [Gray-faced buzzard-eagle]

夏鳥。ネズミの天敵として重要。第 1 林班・第 2 林班の境界尾根のモミで本種の古い巣を見たことがあり、演習林内でも繁殖している。ビビューイと鳴き、キミーとも聞こえるので、キミーダカの俗名がある。

6 クマタカ (129) *Spizaetus nipalensis orientalis* (Temminck & Schlegel) [Hodgson's hawk eagle]

留鳥。おそらく演習林内に、1~3 つがいが生息すると思われる。ノウサギの天敵として重要であるが、近年、密猟のため個体数が減少した。造林地保護の立場からこの種を保護することが必要である。

キジ目 GALLIFORMES

キジ科 PHASIANIDAE

7 コジュケイ (146) *Bambusicola thoracica* (Temminck) [Chinese bamboo-pheasant]

留鳥。演習林内にはあまり多くないが、部落周辺には少なくない。雑草類の種子などを食べる。聞きなしは“ちょっとなまい”。

8 ヤマドリ (147) *Phasianus soemmerringii intermedius* Kuroda [Copper pheasant]

留鳥。演習林には少なくない。林間や下草の草むらで食物を取っている。本種は鳴かないが雌を呼ぶ時など地上

にうずくまり、両翼で地面をはげしく打ってドドド…という音を出す。俗にこれを“ヤマドリが母衣（ホロ）を打つ”という。

9 キジ (148) *Phasianus colchicus tohkaidi* Momiyama [Green pheasant]

留鳥。演習林内で見かけることはほとんどないが、米野々部落や水田の周辺でよく見る。鳴き声はケンノケンノ

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

10 キジバト (288) *Streptopelia orientalis orientalis* (Latham) [Rufous turtle dove]

留鳥。演習林でも普通に見られる。アキグミ、ネズモチなどの種子を食べる。

11 アオバト (290) *Sphenurus sieboldii sieboldii* (Temminck) [Japanese green pigeon]

留鳥。比較的多く、尾根道を歩いていると繁殖期にはアーオー、アーオーという特異な鳴き声を少なくとも一度は耳にする。ヤマザクラ、マラカン、マツグミなどの実を食べる。

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 CUCULIDAE

12 ジュウイチ (292) *Cuculus fugax hyperythrus* Gould [Horsfield's hawk cuckoo]

夏鳥。演習林内では個体数は多いとはいえないが、毎年その鳴き声を聞く。鳴き声ジュウイチノジュウイチノは慈悲心ノ慈悲心ノとも聞こえるので、“慈悲心鳥”の別名がある。鱗翅目幼虫を最も多く食べ、特にドクガ科、シャクガ科を好むようで、他にアリ科成虫も食べる。

13 カッコウ (293) *Cuculus canorus telephonus* Heine [Common cuckoo]

夏鳥。ほとんどの個体が当地を通過してさらに北へ渡ってしまうが、一部は白ツエなどの尾根筋に残るようである。鱗翅目幼虫を最も多く食べ、特にシャクガ科、シャチホコガ科、ヒトリガ科を好むらしい。他にアリ科成虫も食べる。

14 ツツドリ (294) *Cuculus saturatus horsfieldi* Moore [Himalayan (or Oriental, Saturated) cuckoo]

夏鳥。演習林に少なくない。鳴き声はポ・ポ……に近い。鱗翅目幼虫を最も多く食べ、特にスズメガ科、シャチホコガ科、シャクガ科を好むらしい。

15 ホトトギス (295) *Cuculus poliocephalus poliocephalus* Latham [Little cuckoo]

夏鳥。演習林に少なくない。ホトトギス科の中で本種が最も多く生息している。聞きなしは“ホトト・ギスノ”“ Teppenka-ketaka”, “Honpon-tatetaka” など。鱗翅目幼虫を最も多く食べ、特にシャクガ科、シャチホコガ科、ドクガ科を好むようで、他にアリ科成虫も食べる。

フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

16 コノハズク (301) *Otus scops japonicus* Temminck & Schlegel [Scops owl]

夏鳥。毎年5月ごろその鳴き声を聞く。聞きなしは“ブッポウソウ（仏法僧）”少数ではあるが生息している。昆虫類を主食とし、ゴミムシダマシ、オサムシ、ゴミムシなどを食べる。

17 オオコノハズク (302) *Otus bakkamoena semitorques* Temminck & Schlegel [Collared scops owl]

留鳥。ごく少数生息している。小鳥類や小型の哺乳類、昆虫類を食とする。

18 アオバズク (304) *Ninox scutulata japonica* (Temminck & Schlegel) [Brown hawk owl]

夏鳥。多くないが毎年渡ってくる。夕刻から夜間ホウホウと2声ずつ鳴く。主食は昆虫類。

19 フクロウ (305) *Strix uralensis fuscescens* Temminck & Schlegel [Ural owl]

留鳥。多くはないが演習林内では容易にその声を聞くことができる。聞きなしは“ゴロスケ、ホウ”“糊つけ干せ”など。小鳥類やスミスネズミのような小型哺乳類を食べる。

ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES

ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE

20 ヨタカ (306) *Caprimulgus indicus jotaka* Temminck & Schlegel [Jungle nightjar]

夏鳥。個体数は多くないが、演習林内でキョキョキョ…という鳴き声は普通。食餌は鱗翅目、鞘翅目などの成虫で、好んで飛翔中のものを捕食するという。

アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 APODIDAE

21 ハイオアマツバメ (307) *Chaetura caudacuta caudacuta* (Latham) [White-throated needle-tailed swift]
旅鳥。ごく少数観察されたことがある。

22 アマツバメ (309) *Apus pacificus kurodae* (Domaniewski) [White-rumped swift]

夏鳥。演習林内では上空を飛翔中のものが時々目撃される。瀬戸内海の無人島などで、営巣しているものが飛来したものと思われる。飛翔中の昆虫を食べる。

ブッポウソウ目 CORACIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

23 ヤマセミ (310) *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck) [(Greater) Pied kingfisher]

留鳥。米野々部落あたりでは見かけるが、演習林内には入ってこないようだ。川魚を主食とする。

24 アカショウビン (312) *Halcyon coromanda major* (Temminck & Schlegel) [Ruddy kingfisher]

夏鳥。演習林には少ない。鳴き声は“キョロ・ロ・ロ…”年によって渡ってこない年もあるように思われる。サワガニやカエル類を食べる。

キツツキ目 PICIFORMES

キツツキ科 PICIDAE

25 アオゲラ (319) *Picus awokera horii* Taka-Tsukasa [Japanese green woodpecker]

留鳥。演習林には少なくない。ビュー、ビューと鳴く。アリ科の成虫、鞘翅目成虫などの昆虫類のほか、キハダ、ツタウルシの種子など植物質も食べる。

26 オオアカゲラ (325) *Dendrocopos leucotos namiyei* (Stejneger) [White-backed woodpecker]

留鳥。演習林には少なくない。キョッ!キョッ!と鳴く。カミキリムシの幼虫などの昆虫を主食とするが、ハゼ、スイカズラなどの植物質も食べる。

27 コゲラ (327) *Dendrocopos kizuki shikokuensis* (Kuroda) [Japanese pigmy woodpecker]

留鳥。普通に見られ、個体数も多い。ピーンと鳴く。カラ類の混群に混じっていることが少なくない。アリ科の成虫、カミキリムシ類の幼虫、鱗翅目の幼虫など昆虫類を主食とするが、ウルシ科の種子など植物質も食べる。

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

28 ツバメ (335) *Hirundo rustica gutturalis* Scopoli [House swallow]

夏鳥。演習林内では営巣しない。周辺の部落で営巣している親鳥や巣立ちビナがエサを取りに入ってくるだけである。飛翔中の昆虫を食べる。聞きなしは“土食うて虫食うてしぶうい”。

29 コシアカツバメ (337) *Hirundo daurica japonica* Temminck & Schlegel [Red-rumped swallow]

夏鳥。前種と同様、演習林内では営巣せず、エサを取りにくるだけである。飛翔中の昆虫を食べる。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

30 キセキレイ (342) *Motacilla cinerea robusta* (Brehm) [Grey wagtail]

留鳥。個体数は多くないが、毎年第一林班の作業所付近や第三林班の旧作業小屋付近で営巣する。キッ!キッ!
に近い、かなり鋭い声で鳴く。カワゲラ科、鱗翅目の幼虫などの昆虫を食べる。

31 ハクセキレイ (343) *Motacilla alba lugens* Gloger [White wagtail]

冬鳥。主に周辺部落の川原に生息する。鞘翅目、双翅目などの昆虫やタニシなどを食べる。

32 セグロセキレイ (344) *Motacilla grandis* Sharpe [Japanese wagtail]

留鳥。部落から演習林までの谷に生息するが、演習林内に入らないようである。早春より尾根上などで複雑な美
声で囀る。鞘翅目、鱗翅目、カワゲラ科などの昆虫や、時にはカタツムリやエビなども食べる。

33 ピンズイ (348) *Anthus hodgsoni hodgsoni* Richmond [Olive-backed (or Indian tree) pipit]

冬鳥。冬期にはメドハギなどマメ科の種子などを主食とする。石鎚山系の瓶が森では夏期も見られ、おそらく繁
殖するものと思われる。

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

34 サンショウクイ (353) *Pericrocotus divaricatus divaricatus* (Raffles) [Ashy minivet]

夏鳥。ヒリヒリヒリ・ヒリヒリヒリ……と鳴く。演習林には少ない。鞘翅目の幼虫や半翅目などの昆虫を主に食
べる。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

35 ヒヨドリ (355) *Hypsipetes amaurotis amaurotis* (Temminck) [Brown-eared bulbul]

留鳥。演習林には多い。多様の声を発する。植物質のエサを好み、ヤマザクラ、ノイバラの花の蜜や各種の植物
の実を食べる。

モズ科 LANIIDAE

36 チゴモズ (356) *Lanius tigrinus* Drapiez [Thick-billed shrike]

旅鳥。ごく少数観察されたことがある。

37 モズ (357) *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel [Bull-headed shrike]

留鳥。周辺の部落には普通に見られるが、演習林内ではまれにしか観察できない。よく他鳥の鳴き声をまねるの
で“百舌鳥”とも書く。鱗翅目、鞘翅目などの昆虫を主に食べる。

レンジャク科 BOMBYCILLIDAE

38 キレンジャク (361) *Bombycilla garrulus centralasiae* Poliakov [Waxwing]

旅鳥。渡りの途中の群れを見ることがある。ヤドリギ、イイギリ、ヤツデ、ネズミモチ、エノキなどの実を食べ
る。

39 ヒレンジャク (362) *Bombycilla japonica* (Siebold) [Japanese waxwing]

旅鳥。前種同様渡りの途中の群れを見ることがある。食性は前種と同様。

カワガラス科 CINCLIDAE

40 カワガラス (363) *Cinclus pallasii pallasii* Temminck [Brown dipper]

留鳥。演習林の周辺の川には少なくともが演習林内の川にはあまり生息していない。トビケラ、カワゲラの幼虫
や小魚などを食べる。

ミソサザイ科 TROGLODYTIDAE

41 ミソサザイ (364) *Troglodytes troglodytes fumigatus* Temminck [Wren]

留鳥。演習林には多い。特に自然林の多く残っている谷には多く、複雑な高い囀声を響かしている。最も高い優占度を示す場合がある。鱗翅目、鞘翅目の幼虫などを食べる。

イワヒバリ科 PRUNELLIDAE

42 カヤクグリ (367) *Prunella rubida rubida* (Temminck) [Japanese accentor]

冬鳥。愛媛県でも石鎚山系の亜高山帯では繁殖するものがある。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

43 コマドリ (368) *Erithacus akahige akahige* (Temminck) [Japanese robin]

夏鳥。演習林では繁殖しないが、4月上～中旬にその鳴き声を聞くことができる。その後は石鎚山などの亜高山帯へ移動してしまう。鞘翅目、鱗翅目の幼虫など昆虫を主食としている。愛媛県の県鳥。

44 ルリビタキ (374) *Tarsiger cyanurus cyanurus* (Pallas) [Siberian bluechat]

冬鳥。ヤマハゼ、ヌルデ、ヒサカキなどの種子を食べる。本種も石鎚山系の亜高山帯では繁殖するものがある。

45 ジョウビタキ (375) *Phoenicurus auroreus auroreus* (Pallas) [Daurian redstart]

冬鳥。膜翅目、鱗翅目の幼虫や成虫などの昆虫類、ヤマウルン、ヌルデなどの植物質を食べる。

46 ノビタキ (376) *Saxicola torquata stejnegeri* (Parrot) [Stonechat]

旅鳥。春秋の渡りの途中のものを見かけることがある。

47 トラツグミ (383) *Turdus dauma aureus* Holandre [White-ground thrush]

少なくとも一部は留鳥。個体数は少ない。夜間ヒー……、ヒー……と鳴く。昆虫類やミミズなどの動物質やヤマハゼ、ツタ、ヒサカキなどの種子を食べる。

48 クロツグミ (386) *Turdus cardis* Temminck [Grey thrush]

夏鳥。演習林には割合多く、よく通る美声で囀る。ヤマザクラ、ヒサカキなどの植物質や昆虫類を食べる。

49 アカハラ (387) *Turdus chrysolaus* Temminck [Brown thrush]

冬鳥。鱗翅目の幼虫やヒサカキの実などを食べる。南四国では越冬個体がかかり見られるようであるが、松山辺ではむしろ稀。

50 シロハラ (389) *Turdus pallidus* Gmelin [Pale thrush]

冬鳥。鱗翅目の幼虫、アリ科成虫などの昆虫や、イヌツゲ、ヒサカキなどの実を食べる。茂みの地上を好んで生息する。

51 マミチャジナイ (390) *Turdus obscurus* Gmelin [Grey-headed thrush]

旅鳥。渡りの途中のものが、ごくまれに見られる。

52 ツグミ (392) *Turdus naumanni* Temminck [Dusky thrush]

冬鳥。コガネムシなどの昆虫やいろいろな植物の実を食べる。

ウグイス亜科 SYLVIINAE

53 ヤブサメ (396) *Cettia squameiceps* (Swinhoe) [Short-tailed bush warbler]

夏鳥。演習林内にも多い。ブッシュの中でシーシー……と虫のような声で鳴く。鞘翅目、半翅目などの昆虫を主食とする。

54 ウグイス (397) *Cettia diphone cantans* (Temminck & Schlegel) [Bush warbler]

留鳥。演習林では最も普通に見られる種である。特に伐採後の灌木林や若い造林地などで多く、最優占種である。鞘翅目、鱗翅目などの昆虫を主に食べる。

55 メボソムシクイ (407) *Phylloscopus borealis xanthodryas* (Swinhoe) [Arctic warbler]

夏鳥。石鎚山などの亜高山帯で繁殖するが、4～5月ごろ渡りの途中のものの鳴き声を聞くことがある。チョリチョリ……と鳴く。

56 センダイムシクイ (409) *Phylloscopus occipitalis coronatus* (Temminck & Schlegel) [Crowned willow warbler]

夏鳥。演習林に少なくない。聞きなしは“ショウチュウ1杯グーイ”でグーイに特徴がある。鞘翅目、膜翅目などの昆虫を食べる。

57 キクイタダキ (411) *Regulus regulus japonensis* Blakiston [Goldcrest]

冬鳥。小群で見られ、あまり人を恐れないが、最近、激減した感がある。ヒノキ、アカマツの種子を食べる。

ヒタキ亜科 MUSCICAPINAE

58 キビタキ (414) *Ficedula narcissina narcissina* (Temmick) [Narcissus flycatcher]

夏鳥。近接する高縄山には多いが、演習林には少ない。鳴き声は複雑多様。鞘翅目、双翅目などの昆虫を食べる。

59 オオルリ (417) *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* (Temminck) [Blue and white flycatcher]

夏鳥。演習林にも割合多い。溪流付近を好む。鞘翅目などの昆虫を主食とするが、ノイバラ、ヤマザクラ、ミズキなどの植物質も食べる。

60 サメビタキ (418) *Muscicapa sibirica sibirica* Gmelin [Sooty flycatcher]

旅鳥。少数観察されただけである。

61 エゾビタキ (419) *Muscicapa griseisticta* (Swinhoe) [Grey spotted flycatcher]

旅鳥。少数観察されただけである。

62 コサメビタキ (420) *Muscicapa latirostris* Raffles [Brown flycatcher]

夏鳥。演習林にあまり多くない。鞘翅目、鱗翅目などの昆虫を主食とし、巧みに飛翔中のものを捕える。

カササギヒタキ亜科 MONARCHINAE

63 サンコウチョウ (421) *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton) [Black paradise flycatcher]

夏鳥。愛媛県一带に分布するが個体数は少なく、演習林にも多くない。聞きなしは“月日星ポイポイポイ”。双翅目、半翅目などの飛翔中の昆虫を食べる。

エナガ科 AEGTHALIDAE

64 エナガ (422) *Aegithalos caudatus kiusiuensis* Kuroda [Long-tailed tit]

留鳥。演習林でも普通に見られ、個体数も多い。6月から7月にかけて40羽以上の大群を作り、冬期にも群を作っている。ジュルジュル…と鳴く。鞘翅目、鱗翅目、半翅目などの昆虫を好んで食べる。

シジュウカラ科 PARIDAE

65 コガラ (425) *Parus montanus restrictus* Hellmayr [Willow tit]

留鳥。個体数は少ないが、演習林の標高800m以上の自然林では普通に見られる。ツーヒー、ツーヒー……とよく通る澄んだ声で鳴く。鞘翅目、鱗翅目などの昆虫と、植物の実なども食べる。

66 ヒガラ (426) *Parus ater insularis* Hellmayr [Coal tit]

留鳥。個体数は比較的多い。ツツビー、ツツビーと早口に囀る。昆虫類を好むが、アカマツ、ブナなどの種子も食べる。

67 ヤマガラ (427) *Parus varius varius* Temminck & Schlegel [Varied tit]

留鳥。個体数は比較的多い。ゆっくりツツビー、ツツビーと鳴く。鞘翅目の成虫、鱗翅目の幼虫などの昆虫類を主食とするが、ツルマサキ、スギ、ブナなどの種子も食べる。

68 シジュウカラ (428) *Parus major minor* Temminck & Schlegel [Great tit]

留鳥。演習林で最も多い種である。ツツビー、ツツビーと囀る。鞘翅目の成虫、鱗翅目の幼虫などの昆虫やクモ類を主食とするが、アカマツ、ツルマサキなどの種子も食べる。

ゴジュウカラ科 SITTIDAE

69 ゴジュウカラ (429) *Sitta europaea roseilia* Bonaparte [Nathatch]

留鳥。個体数は少ないが、演習林の標高 800 m 以上の自然林には普通に見られる。繁殖期にはフィ、フィ……と高い声で鳴く。鞘翅目、鱗翅目の幼虫などの昆虫を主食とするが、ブナなどの種子も食べる。

キバシリ科 CERTHIIDAE

70 キバシリ (430) *Certhia familiaris japonica* Hartert [Tree creeper]

冬鳥。夏に石鎚山などの亜高山帯又は北国にいたものが漂行してきたと思われる。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

71 メジロ (431) *Zosterops japonica japonica* Temminck & Schlegel [Japanese white eye]

留鳥。個体数は多くないが普通に見られる。昆虫類、クモ類などの動物質や、ナツグミ、ヌルデ、ノブドウ、アケビなどの実を食べる。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

72 ホオジロ (435) *Emberiza cioides ciopsis* Bonaparte [Siberian meadow bunting]

留鳥。演習林にも普通で、特に造林地、灌木林に多い。聞きなしは“一筆啓上仕り候”など各地に少なくない。鞘翅目、膜翅目などの昆虫や、イネ科植物の種子などを食べる。

73 ホオアカ (438) *Emberiza fucata fucata* Pallas [Grey-headed bunting]

冬鳥。愛媛県でも大川峰、大野が原、瓶が森等標高 1,500 m 前後の山地で繁殖するものがある。

74 カシラダカ (441) *Emberiza rustica latifascia* Portenko [Rustic bunting]

冬鳥。愛媛県各地の平地に普通。演習林では周辺で目につく程度である。

75 ノジコ (446) *Emberiza sulphurata* Temminck & Schlegel [Japanese yellow bunting]

旅鳥。少数観察されただけである。

76 アオジ (447) *Emberiza spodocephala personata* Temminck [Black-faced bunting]

冬鳥として各地に普通。雑草などの種子を食べる。

77 クロジ (448) *Emberiza variabilis* Temminck [Grey bunting]

冬鳥。林内でよく見かける。ヒサカキ、ノイバラ、エノキなどの種子を食べる。

アトリ科 FRINGILLIDAE

78 アトリ (456) *Fringill montifringilla* Linnaeus [Brambling]

冬鳥。雑草類やハリギリ、ミズキ、ヒサカキなどの種子を食べる。

79 カワラヒワ (457) *Carduelis sinica minor* (Temminck & Schlegel) [Oriental greenfinch]

留鳥。演習林内ではほとんど見られないが周辺の部落には普通である。雑草の種子などを食べる。

80 マヒワ (458) *Carduelis spinus* (Linnaeus) [Siskin]

冬鳥。しばしば大群を見る。スギ、モミなどの種子を食べる。

81 ベニマシコ (467) *Uragus sibiricus sanguinolentus* (Temminck & Schlegel) [Long-tailed rose finch]

冬鳥。タラノキ、ムラサキシキブなどの種子を食べる。

82 ウソ (469) *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* Lafresnaye [Bull finch]

冬鳥。木の芽を好み、桜の名所等では有害鳥として問題になることがある。

83 イカル (471) *Eophona personata personata* (Temminck & Schlegel) [Japanese grosbeak]

冬鳥として各地に普通。演習林で 4 月の始めごろ、渡りの途中と思われる 50 羽以上の大群を見たことがある。近くの高縄山などでは、一部繁殖している年があるので、演習林でも繁殖しているものがあるかもしれない。“キーキーキョーキー”と鳴く。ヌルデ、エノキなどの種子を食べる。

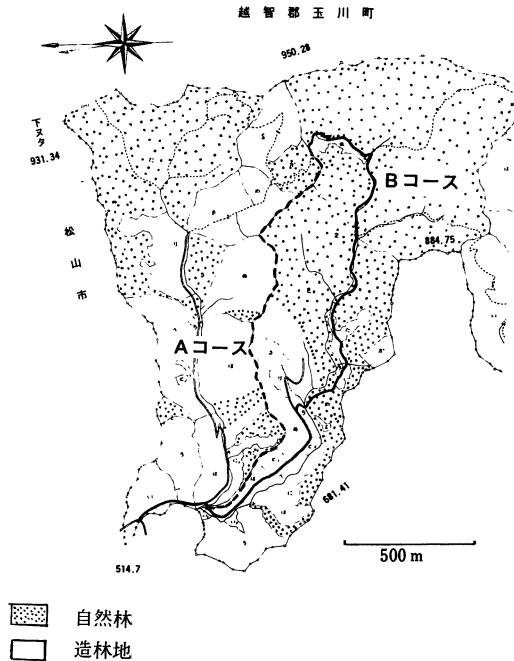


図1 調査地及び調査コース (第一林班・第二林班)

84 シメ (472) *Coccothraustes coccothraustes japonicus* Temminck & Schlegel [Hawfinch]
 冬鳥として各地に普通であるが年によっては少ない。“スエ、スエ……”と鳴き、これはシメシメ…とも聞こえる。
 ミツバウツギ、ムクノキ、ツルマサキなどの種子を食べる。

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

85 スズメ (474) *Passer montanus saturatus* Stejneger [Tree sparrow]
 留鳥。通常、演習林内にはいないが周辺の部落にはごく普通に見られる。

カラス科 CORVIDAE

- 86 カケス (481) *Garrulus glandarius japonicus* Temminck & Schlegel [Jay]
 留鳥。演習林で普通に見られ、個体数も多い。雑食性である。
- 87 ハシボソガラス (488) *Corvus corone orientalis* Eversmann [Carrion crow]
 留鳥。個体数は多くないが普通に見られる。雑食性である。
- 88 ハシブトガラス (489) *Corvus macrorhynchos japonesis* Bonaparte [Jungle crow]
 留鳥。個体数は多くないが普通に見られる。雑食性である。

III 米野々演習林の鳥類密度及び優占度

(1) 調査地及び調査方法

調査は演習林内の第一林班・第二林班で、1976年から1978年の4月・5月の午前中に森下が行った。調査地の環境は、第一林班は、大部分が造林地と伐採後の灌木林、第二林班は林道周辺が伐採地と造林地で、歩道は自然林である。

表1 Aコース, Bコースにおけるラインセンサスの結果

種 名	Aコース (尾根道) 2.0km 1.42時間			Bコース (谷 道) 2.5km 1.73時間		
	個 体 数	優 占 度 (%)	密 度 (N/h)	個 体 数	優 占 度 (%)	密 度 (N/h)
ヤマドリ	0.7	2.0	0.49	0.3	0.9	0.17
キジバト	0.3	0.9	0.21	1.3	4.1	0.75
ツツドリ				0.3	0.9	0.17
アオゲラ				1.3	4.1	0.75
オオアカゲラ				0.3	0.9	0.17
コゲラ	3	8.7	2.11	1.7	5.3	0.98
キセキレイ				0.3	0.9	0.17
ヒヨドリ	4	12.5	2.82	2	6.3	1.16
カワガラス				0.3	0.9	0.17
ミソサザイ	0.3	0.9	0.21	4	12.5	2.31
クロツグミ	0.3	0.9	0.21			
ヤブサメ	1	2.9	0.70	2.7	8.4	1.56
ウグイス	6	17.3	4.23	0.7	2.2	0.40
センダイムシクイ	1	2.9	0.70	0.3	0.9	0.17
キビタキ	0.7	2.0	0.49			
オオルリ				2.3	7.2	1.33
コサメビタキ	2.3	6.6	1.62			
エナガ	0.7	2.0	0.49	2.7	8.4	1.56
コガラ				0.7	2.2	0.40
ヒガラ	1.3	3.8	0.92	0.7	2.2	0.40
ヤマガラ	1.7	4.9	1.20	1.3	4.1	0.75
シジュウカラ	3	8.7	2.11	3.7	11.6	2.14
メジロ	3	8.7	2.11			
ホオジロ	2.3	6.6	1.62	2	6.3	1.16
カケス	3	8.7	2.11	2.7	8.4	1.56
ハシボソガラス				0.3	0.9	0.17
合 計	34.7		24.44	32.0		18.50
種 類 数		18			22	

調査方法は、林道及び谷道、尾根道を歩き、ラインセンサスを行った。速度は時速約 1.5 km、調査幅は左右 50 m ずつ、鳴き声、姿などの手段で確認できたものはすべて記録した。

調査コースは次の 2 コースを設定した。

Aコース……第一林班と第二林班の境界尾根に沿っての歩道で、全長約 2 km。全コースの 8 割程度が、造林地と伐採後の灌木林で、残りが自然林である。

Bコース……第二林班の谷沿いの林道と歩道で全長約 2.5 km。全コースの 7 割程度が自然林で、残りが造林地と伐採地である。

(2) 調査結果

ラインセンサスの結果は表 1 に示した。種類数は 3 年間の合計、個体数は 3 年間の平均、調査時間は 3 年間の平均で示した。なお、優占度はその種の個体数を全個体数で割ったものをパーセントで表わした。密度はその種の個体数を調査時間で割ったものである。

第一林班と第二林班の、わずかに 2 コースでの調査結果から、演習林全域の鳥類相の特徴を述べるのは無理ではあ

うが、概略的な特徴はつかめると思う。

ラインセンサスの結果、A、B 2 コースで 26 種類の鳥が観察された。又、左右 50 m ずつという幅の中には入らなかつたが、常に観察される鳥としてホトトギス、ジュウイチ、アオバト、ゴジュウカラがあり、これら 4 種を加えると、演習林内では、30 種の鳥を比較的たやすく観察することができることになる。これほど多くの種類の鳥を容易に観察できる地域は、愛媛県下でもそれほど多くはない。これは演習林で、造林が進んでいるとはいえ、まだ多くの自然林が残っているためである。

A コースでの優占度の高い種は、上位からウグイス、ヒヨドリ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、カケスの順であり、B コースでは上位からミソサザイ、シジュウカラ、ヤブサメ、エナガ、カケスの順である。A コースでウグイスが最も高い優占度を示したのは、造林地と灌木林が多いためと考えられる。又、B コースでミソサザイが最も高い優占度を示したのは、谷沿いのコースであったためである。演習林において自然林、灌木林及び造林地という環境全体に広く生息する主要な鳥類は、シジュウカラ・ヒヨドリ・カケスの 3 種である。

A コースと B コースを比較してみると、A コースは密度が高いにもかかわらず種類数が少なく、B コースは逆に密度が低いにもかかわらず種類数が多い。これは 2 つのコースの環境の違いによると考えられる。B コースは自然林が多く残っているため森林の植物構成が複雑であり、この複雑な環境が生息鳥類の種類数の多さに反映している。A コースは造林地や灌木林が多いため、森林の植物構成が単純になり、その結果、密度が高いにもかかわらず種類数が少なくなったと思われる。又、A コースではウグイスとホオジロの優占度の合計が 23.9% を占めているのに対し、B コースでは 8.5% と低い。ウグイスはササ原や灌木林を好み、ホオジロは伐採地や灌木林を好む。これら 2 種が高い優占度を示すということは自然環境の悪化を示していると考えられる。

参 考 文 献

- 1) 千羽晋示：日本産啄木鳥類の食物分析（鳥類の食性第 7 報）。山階鳥研報 5 (5) (No. 31) : 487~510, 1969
- 2) 石原 保：増訂愛媛県の野鳥。40 pp, 愛媛県。1977
- 3) 石沢慈鳥・千羽晋示：日本産ホトトギス科 4 種の食性。山階鳥研報 4 (5) (No. 25) : 302~326, 1966
- 4) 清棲幸保：野鳥の事典。413 pp. 東京堂出版。1973
- 5) 小島圭三・和田豊洲：高知県産の鳥類の食性について。高知大学学術研究報告第 16 卷自然科学 II 第 6 号 : 1~27, 1967
- 6) 黒田長久：早池峯山で採集のコガラ、ゴジュウカラ、ミソサザイの胃内容物。山階鳥研報 5 (6) (No. 32) : 682~683, 1969
- 7) 日本鳥学会：日本鳥類目録第 5 版第二刷、邦文編。120 pp. 学習研究社。1974
- 8) 大西正経：愛媛県、探鳥の手引。日本野鳥の会愛媛支部報 1 : 2~7, 1976
- 9) 得居 修・坂上 実：米野々演習林樹木誌。愛媛大演報 2 : 27~54, 1964

(1978 年 8 月 31 日 受理)